

2-33-1 天寧寺

山号は萬松山ばんしょうざんと号し、曹洞宗に属する。

当寺は、もと会津（福島県）城下にあったが、天正年間（1573～1592）に、天台宗松陰坊の遺跡と言われるこの地に移転されたと伝えられている。その後、天明の大火により堂宇を焼失したが、本堂は文化9年（1812）に、書院は天保14年（1842）に再建された。

本堂には、仏師春日作と伝える本尊釈迦如来像を、観音堂には後水尾天皇の念持仏聖観音像及び東福門院の念持仏薬師如来像を安置している。

境内墓地には、江戸時代の茶人として有名な金森宗和、剣道示現流の開祖と言われる善吉和尚らの墓がある。また、山門を通して眺める比叡の秀峰は、あたかも額縁に入れたように見えるところから、山門は「額縁門」と呼ばれて親しまれている。

京都市
説明板より